

賞高木が取最高賞 高井高木三戸部 全十勝連盟



優秀賞を獲得した高井、三戸部、鈴木部会長、高木（左から）

真剣な稽古が結果に

全日本杖道で十勝勢活躍

日本古武道の一つ「杖（じょう）道」の第38回全日本大会（全日本剣道連盟主催）で、2段の部に出場した全十勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）の三戸部良太（28）＝芽室＝、高井宏行（44）＝鹿追＝組と、札幌市の選手と組んだ高木誠（37）＝音更＝が、最高賞に当たる優秀賞を受賞。管内勢が大活躍した。

（酒井花）

杖道は長さ128センチ、直径2・4センチの丸いつえを武器に、打ち掛かる太刀を相手に、太刀、やり、なぎなたの技に独自の動きを加味しながら、2人1組で取り組む稽古が基本。

全日本大会では、初段から7段まで段別に指定された全剣連杖道の立ち合いの形6本を紅白2組のペアが演武し、審判員3人が正しい姿勢、打突、氣勢、技の充実度などを審査し、2本以上旗の上がつた組が勝つ。高段者とは別に、初段～3段は準決勝までとし、決勝に進んだ2組を優秀賞として表彰している。今年は16日、大阪市の舞洲アリーナで開かれた。管内勢がW受賞を果たした2段の部には、41組が出場。

三戸部、高井組は1回戦で小さなミスがあったものの、順調に勝ち進み、3回戦で前回初段の部で優勝した強豪の広島ペアと対戦、最大のヤマ場だったが、3-0でストレート勝ちした。三戸部は初段の部で2回の優秀賞経験があり、3度目の受賞にも「満足はしていない。さらに技術と技を会得して上を目指す」と言う。剣道歴は長いが、杖道は3年目という高井も2年連続の受賞となり「力だけではないのが杖道の魅力。相手に恵まれて、優勝できた」と語る。

札幌市の細沼哲也（37）と組んだ高木は、杖道部会では珍しくまったくの武道未経験者。1回戦では、十勝の杖道部会で稽古をしていたことも

あり、先輩格の宮田遼平（大経験している高木は「昨年阪の組を下して上り詰め受賞できなかったのも、何と2年前に初段で優秀賞を」か頑張ろうと稽古に励んだ。

突いたり、打ったり、昔の人が考え出したつえから繰り出される多彩な技の魅力にはまっている」と話す。

3人は、釧路市の8段の指導者の下を2カ月に1回訪れ、技を磨いてきたという。鈴木部会長（7段）は、「稽古に取り組み真剣な姿勢が結果につながった」と喜んでい